

(29日)

さう學友諸君！ 究中、ストライキ斗争を斗ひ抜か  
て二る文部の学友諸君！

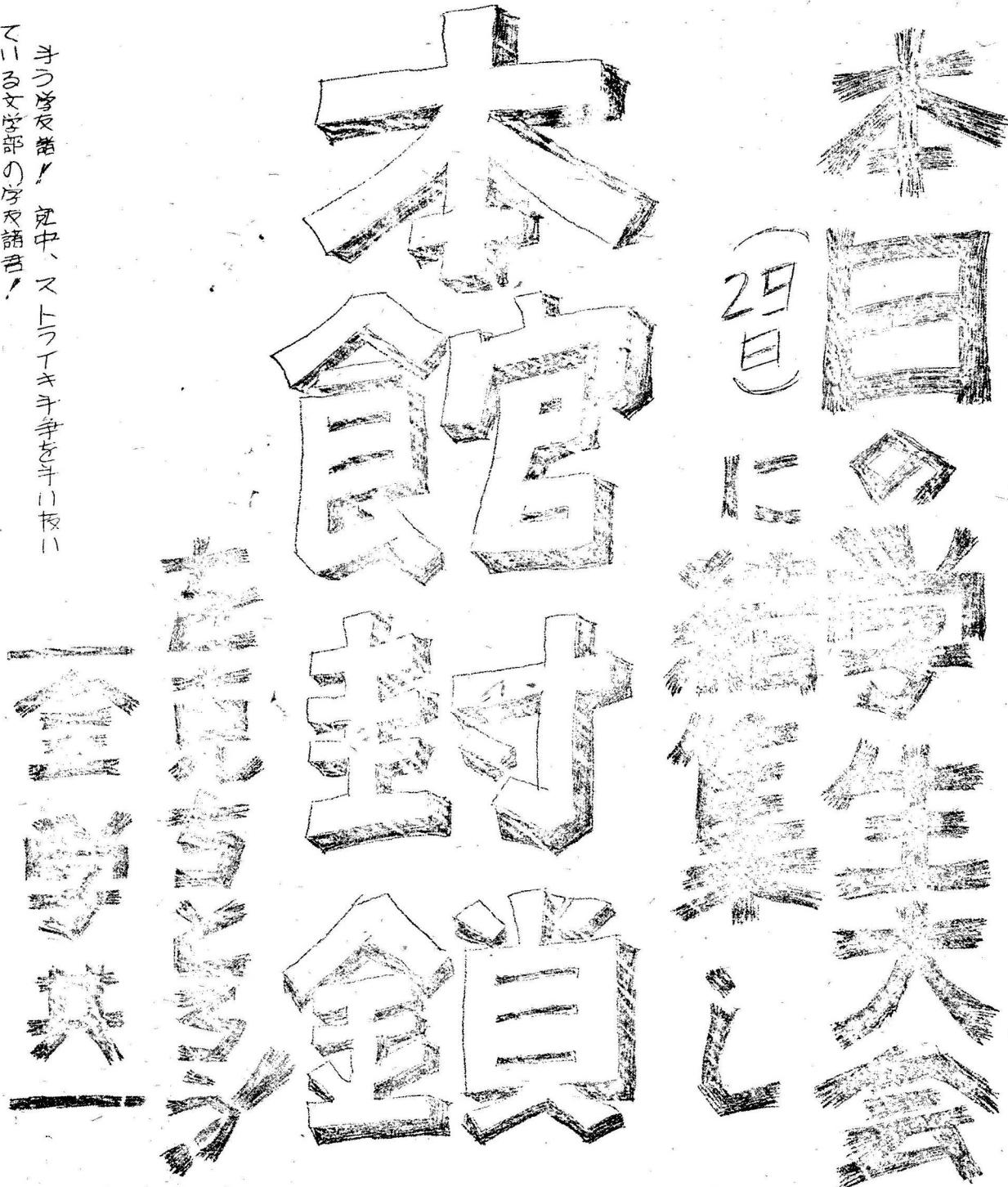
我々の二の間のストライキ斗争は若葉の連続であ  
つたといえよう。バリケードを構築し、固いピケッ  
トライバーをもつてストライキを守し続け、我々の  
斗争意志の力を誇示してきた。しかしながら、現在  
大学当局は極めて高圧的な姿勢を保ち続けている。確  
かな沈黙を守つて棍棒の推進を謀らんとしてい  
る。だが学友諸君、我々は大学当局のこうした策略  
に屈服できるのであろうか。否、断じて否である。

我々に課せられているのは我々の斗争実力をもつて  
彼らの悲辛な努力を稀砾し、更に高慶な欺瞞を駆使  
しなから、棍棒阻止、諸君に計上自殺撤回を力ちと  
ること、これ以外にはありえない。

本日の学生大会はこうした我々の固い意志を実現  
するための方針を巡つての熱っぽい討議でなければ  
ならない。一層して我々に敵対してきて二る大学當  
局の諸策を粉碎し、彼らの野望を挫きさせ、スト  
ライキ斗争の勝なるエスカレーミヨンをたらどるの  
でなければならない。昨日の時既に於いては大学當  
局は新たな攻撃をかけてきている。即ち、文部の

教職へ動きを切歎し、説得工作リ機器架設をなして  
きこりるのである。そこに於いては我々のストキ争  
の主体的根柢、筑波移転という形での教育の所因主  
義的再編という問題には一指も触れず、但別約な討  
論う教室会やし等で学生の動搖を謀つてゐるのであ  
る。更に、巧妙になつて裏方に、我々の斗争思想、感  
性を彼らの日常的な生活、仕事等について語したり  
する二つによつて、我々をもまた日常的なこれまで  
のようす「学校生活」に引き戻さうとしているので  
ある。とくに一年生部分を中心的に切り崩さんとし  
てゐるのだが、我々はこうした彼らの反動的な策略  
を見抜き、我々の斗争力をもつてはねのけて二りこう  
ではないか！

学友諸君、我々のストライキ斗争の敵は單に外からの大學當  
局の策動にとどまつない。悲惨劇的ことに我々内側からも構成な  
形で上級者への策動がなされてきこりるのである。即執行部リ民青系  
諸君は27日の学生大会に於いても明瞭なように二の間の古舊的な方  
針を手廻しするのみならず、アーチ方式で金を出ししてゐる。しかししながら、  
我々は一步前進とせるがまな形で本館封鎖という方針を提起  
起した時、民青系は「火炎」に反対して反対してきたのだ。彼らの方針  
のものは、さう兄弟かつて上り、見放された彼らが、再度出でないまま力  
の团结「敵な風生業者す」という方針のもとに(つらへ)



ヘトド争を收拾せんとする策動に他ならんとして  
ノの計画を実現するため「教官オルグ」と名へ  
テ教官会議を開起して、なんとかこのままに現在の  
学校当局のストライキ難しに生じたものに他  
ならず、我々の斗争は外の幹部と並んであるものである。  
した田執行部は諸君の懇意した田和見主  
義反動的な幹部を逐つて、我々は決して許さんと  
はござんな。